

## 第4章 観光振興の基本的な考え方

---

本市観光の現状と課題分析を踏まえ、本市観光が目指す将来像と取組の基本方針等、今後の観光振興施策についての基本的な考え方を整理する。



## 1. 取組の基本方針

本市の観光振興のための課題を踏まえ、本計画では、次の基本的な取組方針に沿って観光振興施策を推進する。

### 方針1

#### 目標像を明確化・共有し、「伊東らしさ」を打ち出す

第2次計画は、「観光都市から感動都市へ」をテーマに、それぞれの個性をもった魅力ある地区が伊東市ならではの『温泉・食・いやし』のサービス基盤で結ばれることで、来訪者に感動を与える“最高のおもてなし力”をもった観光地を目指すことを基本理念としていた。

本計画は、この理念を継承しつつ、本市の観光地としてのビジョン（ブランド価値形成の方向性）をより明確にし、その方向性に沿って観光振興の様々な取組においてアピールするポイントや発信するメッセージに一貫性を持たせることで、伊東らしさを強く打ち出していく。

### 方針2

#### 地区の特色を生かして観光まちづくりを推進する

本計画を市民に周知することにより、市民参加による観光まちづくりを推進する。また、観光関連事業者だけでなく、他の産業や地域の事業者、市民団体等との連携を強化し、地区が持つ資源を活用した体験プログラムの充実や新たな来訪目的の開発等によって観光地としての魅力を強化し、観光交流人口の増加を図るとともに、地域経済への波及効果を創出していく。

### 方針3

#### 多彩な資源を活用して新たな観光市場を開拓する

本市が持つ多彩な観光資源を新たな視点から見直し、観光・余暇ニーズに対応した商品やサービスを再構築することで、滞在型観光やインバウンド観光等、新しい観光市場を開拓し、観光を基幹産業とする本市の持続的な発展につなげていく。

## 2. 観光振興の方向性

### 2.1 観光地ビジョン

本市のまちづくりの基本指針を示す総合計画では、目指すべき市の将来像を「ずっと住みたい また来たい 健康保養都市 いとう」としており、健康保養都市のイメージとして、「自然豊かな健康のまち」、「自然豊かな交流のまち」と定めている。

本市は、全国有数の温泉湧出量を誇る温泉観光地であるとともに、大室山や城ヶ崎海岸、一碧湖等、豊かな自然に囲まれ、花の名所も多く存在している。また、南部地区には、おしゃれなペンション、カフェや美術館等の文化施設も集積している。目指すべき市の将来像に照らして、これらの資源を俯瞰してみると、ゆったりとした時間の中で癒しの空間を提供していく観光素材が多く、本市の強みを生かした観光振興の方向性としては、首都圏等にはない豊かな自然の中で、「日々の疲れやストレスを心身ともに癒せるまち」を目指すことが妥当であると考えられる。本市にはこれまで健康や癒しをテーマにした健康保養地づくり事業を推進してきた実績があり、この方向を具現化する上では、その蓄積を生かしていくことも可能である。

そこで、ゆとり、快適、癒し、ストレス発散、休養、息抜き、リフレッシュ、くつろぎ、やすらぎ等、本市を訪れる観光客が得られる便益、体験価値を「リラックス」という言葉に集約し、「リラックスできるまち・いとう」を観光地としてのブランド価値形成のビジョンとして掲げ、市民の理解、参加を促進するとともに、観光・宿泊関連団体や事業者等の関係者がその理念を共有することで、一体となって観光まちづくりを推進することを目指す計画とする。

#### ■ 本計画の基本的な考え方

##### 【本市の目指す将来像】

**「ずっと住みたい また来たい 健康保養都市 いとう」**  
 ～自然豊かな健康のまち・自然豊かな交流のまち～

本市の強みを生かした観光振興の方向性

##### 【観光地ビジョン】

日々の疲れ、ストレスを心身ともにいやせる息抜き都市  
**～リラックスできるまち・いとう～**

(イメージキーワード)

ゆとり 快適 癒し ストレス発散 ストレスフリー ひと休み 休養 心の洗濯  
 骨休め 息抜き リフレッシュ 元気回復 くつろぎ やすらぎ のんびり

市や宿泊・観光関連団体を始め、  
 観光に携わる関係者や市民がビジョンを共有し、  
 ハード・ソフトの両面から一貫性のある取組を推進

## 2.2 地区別の方向性

本計画では、本市の都市構造や観光資源の分布状況等を踏まえ、計画地区を「宇佐美地区」「伊東市街地地区」「南部地区<sup>27</sup>」の3つに分け、地区別の方向性を次のように設定して、各々の特性を生かした観光振興を図っていく。

### (1) 宇佐美地区

#### 健康と癒しのアウトドアビレッジ

山と海に挟まれたまちとしての特性を生かし、キャンプ、ウォーキング、サイクリング、各種マリンスポーツ等、自然を生かした多様なアクティビティ（体験・活動）の環境やサービス提供体制を整備し、自然の中でリラックスして豊かな時間を過ごし、元気になる「健康と癒しのアウトドアビレッジ」として誘客を図っていく。



### (2) 伊東市街地地区

#### 温泉情緒あふれるリラックスタウン

伊東駅を起点に市街地エリアにおいて、東海館等の本市固有の資源を生かした温泉情緒あふれる空間を演出して来訪者に非日常の解放感を味わってもらう等、多くの人々が交流し地域がにぎわうための施策を進めるとともに、人々が常に滞留するスポットを点在させ、観光客だけでなく市民も一年を通じて楽しく過ごすことのできるまちづくりを推進する。



### (3) 南部地区

#### 滞在型リフレッシュリゾート

南部地区の豊かな自然や景観、芸術文化を活用した「滞在型リフレッシュリゾート」を南部地区に実現し、現代社会での生活におけるストレス等未病への対応として、本市の自然や文化に触れ、心身を癒すことのできる、環境と融合した新しい保養地の形を創造する。



<sup>27</sup> 南部地区：第2次計画の「伊豆高原・城ヶ崎海岸地区」と「小室・萩・奥野地区」を包含したエリアを対象とする。

### 3. 取組の全体像

先述した観光地ビジョンと地区別の方向性を実現するため、下図の全体像の下で本市の観光振興を図っていく。

#### ■ 取組の全体像

##### 【観光振興の方向性（観光地ビジョン）】

日々の疲れ、ストレスを心身ともによせる息抜き都市  
**リラックスできるまち 伊とう**

##### 【取組の基本方針】

- 目標像を明確化・共有し、「伊東らしさ」を打ち出す
- 地区の特色を生かして観光まちづくりを推進する
- 多彩な資源を活用して新たな観光市場を開拓する

##### 取組・施策の体系

###### 全市的な取組の方向性

- (1) **観光プロモーションと情報受発信機能の強化**
- (2) **インバウンド観光の推進**
- (3) **推進体制の構築**

###### 地区別の方向性

(1)	(2)	(3)
<b>宇佐美地区</b>	<b>伊東市街地地区</b>	<b>南部地区</b>
健康と癒しの アウトドアビレッジ	温泉情緒あふれる リラックスタウン	滞在型 リフレッシュリゾート

## 4. 計画目標の設定

「リラックスできるまち・いとう」の観光地ビジョンを目指し、官民一体となって事業を推進していく上で、本市関連部署、伊東観光協会を始め、関連する様々な主体が目標を共有することは、事業効果を高めるために重要な要素である。

また、推進する事業の効果や達成度を的確に把握し、以降の施策にフィードバックするPDCAサイクルを構築する上では、適切な目標設定が不可欠である。

この視点から、本計画では、計画課題（第3章2.2）に対応した以下の目標を設定する。

### 計画目標

#### (1) 「伊東市らしさ」の明確化

指標	指標の内容、出所等	現状 (2017年度)	目標値 (2023年度)
観光客の「伊東市全体」に対する評価	伊東温泉観光客実態調査の伊東市全体の印象（非常に良い、良いの割合の合計）	80%	90%
観光客の「温泉街の雰囲気」に対する評価	伊東温泉観光客実態調査の温泉街の雰囲気の印象（非常に良い、良いの割合の合計）	65.2%	85%
観光客数	鉄道利用者、自家用車の通過台数等に一定の率をかけて算出（推定値）	665万人	720万人
温泉地のランキング順位	観光経済新聞 につぼんの温泉100選総合ランキング	75位	30位以内

#### (2) 観光交流による市内消費の拡大

指標	指標の内容、出所等	現状 (2017年度)	目標値 (2023年度)
日帰り客1人当たりの市内での総消費額	伊東温泉観光客実態調査の伊東市内での消費行動（調査データより算出、推計）	5,380円	10,000円
宿泊客1人当たりの市内での総消費額	伊東温泉観光客実態調査の伊東市内での消費行動（調査データより算出、推計）	24,579円	30,000円
宿泊客数	入湯客数（課税人員）に一定の率をかけて算出（推定値）	295万人 (宿泊率：44%)	360万人 (宿泊率：50%)

## (3) 滞在型観光の比重拡大

指標	指標の内容、出所等	現状 (2017年度)	目標値 (2023年度)
2泊以上の割合	伊東温泉観光客実態調査の伊東での滞在日数	13.3%	20%

## (4) インバウンド観光の推進

指標	指標の内容、出所等	現状 (2017年度)	目標値 (2023年度)
外国人観光客 宿泊者数	市内宿泊施設から聞き取り調査	58,928人	100,000人
観光案内所での 外国人対応人数	伊東観光協会案内所における 外国人観光客対応人数	1,931人	4,000人
外国人対応が出来る 従業員または翻訳機 を配備している 宿泊施設数	伊東温泉旅館ホテル協同組合に 加盟している施設からの聞き取り 調査	48.9% (22/45施設)	95.0%

## (5) 情報収集と情報発信の強化

指標	指標の内容、出所等	現状 (2017年度)	目標値 (2023年度)
観光ホームページの PV <sup>28</sup> 数	平成31年度より運用予定の観光 ホームページのPV数	18,731,526 アクセス	30,000,000 アクセス
観光ホームページの 直帰率 <sup>29</sup>	平成31年度より運用予定の観光 ホームページの直帰率	64.03%	40.0%
インスタグラム フォロワー数	伊東市公式アカウントのフォロ ワー数	1,590人	5,000人

<sup>28</sup> PV：ページビューの略。特定のホームページがどの程度閲覧されているかを測るための一般的な指標で、そのページが開かれた回数を表す。

<sup>29</sup> 直帰率：ホームページを訪れた利用者のうち、トップ画面のみを閲覧し、サイト内の他のページを見ずにそのサイトを離れる利用者の比率